

## 特集序言

# 「絵画と油」の企画と編集にあたって

加 治 恵

(ポーラ化成工業株式会社)



近年、ビジネスにおいて「論理的思考力」に加えて「直感」や「感性」も重要視されてきており、それらを鍛えるためにアートを研修に取り入れる企業も多くあるようです。そこで本誌9月号では、アートの中でもとりわけ目にする機会が多い「絵画」に着目した特集を企画いたしました。

絵画制作には絵具が欠かせませんが、本誌でも関わりの深い「油」を使った絵具に焦点を当て、その歴史、中身、分析技術についての知識、ならびに絵具の種類と表現技法との関わりについて、3名の先生にご執筆いただきました。

ホルベイン工業株式会社の春日敏夫先生には「絵具概説」と題して、絵具の歴史と油絵具の構成、作製方法についてご執筆いただきました。

鹿児島大学教育学部 桶田洋明先生には、「油絵具を用いた表現技法について－変遷と展望－」と題して、絵具の種類と表現技法の違いを解説していただきました。

吉備国際大学 大下浩司先生には、「写真撮影および分光分析の技術を用いた油彩画の科学調査法」と題して、非破壊・非接触での絵画の分析技術についてご執筆いただきました。

総説を読ませていただいて早く絵画を鑑賞しに行きたくなりました。先生方にご紹介いただきました知識により、絵画の見方がかわり鑑賞の楽しみが一層増えそうです。

末筆ながら、ご多忙の中、快くご執筆をお引き受けいただきました先生方には、心から感謝申し上げます。大変興味深く惹き込まれる特集となりましたこと、厚く御礼申し上げます。